

進路だより

第1回 進路講演会

9月14日、名取市高館公民館ホールを会場に進路講演会を開催しました。

今回の講師は、社会福祉法人わらしべ舎理事長の中村晴美氏にお願いしました。障害がある子の母として、施設を運営する理事長としての両方の立場からのお話をうかがいました。

わらしべ舎は、現在太白区西多賀の国道286号線沿いに「わらしべ舎西多賀工房」として「桜蔵（さくら）」というカレーショップを構えています。その前身は青葉区中山・とびのこ公園前のプレハブ建物での石けん作りでした。さらに遡ると、施設立ち上げはアパートの一室からのスタートでした。

施設の立ち上げの契機は、娘さんが宮城教育大学附属養護学校（現在は附属特別支援学校）高等部在学中に、毎日通える施設がなかったからでした。「こんな施設があったらいいな。」を形にしたいと、仲間と共にわらしべ舎を立ち上げたそうです。西多賀工房への移転・カレーショップ開店に際しては、「障害者が作っているから」ではなく、「おいしいカレーを食べに行ったら、障害者が普通に働いていた。」という施設・店づくりに努めたそうです。

進路先としての施設を立ち上げた後も、親亡き後のことを考えてグループホームも立ち上げ、娘さんもグループホームで生活するようになりました。親亡き後を考えて誰かに託すことは大切です。「まだ（親が元気だから）大丈夫。」ではなく、子どもの年齢に応じたライフスタイルを考えて、人生の道筋を整えていくことが大切とのことです。その支援ツールとして、我が子の様々な情報を網羅した「わらしべノート」を紹介いただきました。この一冊が生きてきた証（あかし）となります。ノートの最終ページには、親として残しておきたいことを書き留めるのだそうです。

中村氏は、障害のある人もない人も共に生きやすい「共生社会」を目指していきたいとお話しされました。思いを伝え形にしていくことを実践され、施設やグループホームの立ち上げだけでなく、仙台発で全国の補助制度となったグループホームの1万円家賃補助制度も中村氏の尽力によるものです。

中村氏は、働く生活だけでなく余暇の視点も大切にしており、YMCAプールでの障害児受け入れや水泳のフリックパークラブ・ドルフィンクラブの創設、スペシャルオリンピックスへの参加、音楽療法への参加など、親の視点での障害者の社会参加にご尽力されました。

講演を通して、バイタリティーあふれるこれまでの取り組みや親としての思いなど、経験してきたことのお話はどれも心にしみ引き込まれていきました。共感し涙があふれそうになる場面も何度かありました。特に、「施設がないから。」「サービスや制度がないから。」とあきらめるのではなく、「あったらいいな。」の思いを形にしてきた姿からは大きな勇気をいただきました。

第二回進路講演会は、12月8日（木）卒業生事例発表会として、川崎町にある株式会社ライフフーズ仙台ファクトリーでの卒業生の事例を通して、障害者雇用についてのお話をうかがいます。後日ご案内します。どうぞご参加ください。（会場：高館公民館）



進路ごよみ

11/21（月）～12/9（金）

高等部後期就業体験（10/21（月）～12/2（金）名取作業所）

12/8（木）保護者進路講演会（卒業生事例発表会）

12/20（金）高等部授業参観・後期就業体験保護者報告会

1/23（月）～1/27（金）進路相談機関（高等部2学年）



夏期休業中に行った職員施設・職場見学より、施設を紹介します。

こうそう巨理【巨理町】

NPO法人幸創が運営する就労継続支援B型の施設です。タオルを4つ折りにして刺繍付きの雑巾を縫っていました。一人一人に合った支援具を準備し、それぞれのペースで針仕事を行っていて素晴らしいと思いました。本校の卒業生1名も一生懸命針を動かしていました。他にビジネス手帳の表紙裏にカードを挟む委託作業も行っていました。理事長の高野さんが対応してくださり、幸創さんが持つ熱い想いに感銘を受けました。

仙台ワークキャンパス【仙台市太白区】

仙台ワークキャンパスは、生活介護、施設入所支援、就労移行支援、就労継続支援B型の多機能型の障害福祉サービスを提供し、同じ場所で6つの施設を運営しています。利用者の希望に応じた就労や生活の場を提供することで、利用者の方が生き生きと仕事に取り組み、生活している様子がうかがえました。「れすとらん和味(なごみ)」では、本場仕込みの餃子を味わうことができ、味もサイズも大満足でした。

フリースペースソレイユ【仙台市太白区】

フリースペースソレイユは、田畑に囲まれた静かな住宅地の中にあり、地域に根差した事業所です。就労移行型と就労継続支援B型はお弁当の製造販売を行い、生活介護では、創作活動やお楽しみ会、お弁当の宅配などを行っています。名取支援学校の卒業生も多く、生き生きと仕事をしたり活動を楽しんだりしていました。9月にオープンする「田んぼカフェ」では、おいしいランチや飲み物をいただくことができるそうです。

ふあいん・なちゅらる【岩沼市】

就労移行支援事業と就労継続支援事業B型を併設し、ひよこ会が運営している事業所が「ふあいん」です。B型事業で、今一番力を入れているのは野菜栽培です。「汗を流して働く喜びを皆さんに経験してほしい!」と、少数精鋭、やる気にあふれていました。移行事業では、「なちゅらる」というカフェ事業を展開しています。こちらは無農薬野菜と質にこだわる六丁の目農園の姉妹店として、岩沼市桜にお店を構えています。

びあ【仙台市宮城野区】

4月に移転したばかりの施設敷地は非常に広く、ゆったりとしていました。B型就労、A型就労、就労移行支援など、幅広く受け入れている福祉施設で、レストラン、弁当、燻製など多岐にわたる事業内容が生徒にとっては魅力的な施設の一つであると感じました。また、製造や接客の他にも弁当の配達や販売を行っており、それぞれに合った仕事で活躍できていると感じました。

Schale(チャーレ)おおまち【仙台市青葉区】

Schale(チャーレ)おおまちは、就労への意欲がある自閉症や発達障害のある方が、ライフスキル(調理、家事)やITトレーニング(PC入力など)などの職業スキルを習得し、継続して働くための準備トレーニングを行う就労支援機関です。自分らしくイキイキと働けるよう、細やかな対応をされていました。併設されたCafeの野菜たっぷりランチとスイーツはとてもおいしかったです。近くに来たときには是非どうぞ!

